

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 理科(化学) 氏名

授業実施日: 令和 2年 9月15日

本時の見せどころは・・・
未習事項を既習事項に照らし合わせ、生徒自身が解決していく。

視点		記述欄
科目名		理数化学
出入口	1 生徒	①所属 理数科3年S組 ②人数 42人(男子32人、女子10人) ③特徴・ニーズ 意見が活発に出すことができ、主体性が身についている。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 金属イオンの分離(無機化学) 次にどこで使いますか 有機化合物の分離(抽出実験)
方法・内容	3 本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 有機化合物の分離 ②C/Eの問い 「何を知るとフェノールを抽出できるか？」 ③単元計画 (1) 混合物の分離(本時) (2) 芳香族炭化水素 (3) 酸素を含む芳香族炭化水素 (4) 窒素を含む芳香族炭化水素 (5) 混合物の分離 確認 ④方法 ■講義 ■演習 ■グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット ■プロジェクター
	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ □Extensions(応用、活用): 目的達成のために必要となる知識やスキルを自分自身で発見し、その知識やスキルの修得のため行動を取ることができる。 □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク): 既習事項である金属イオンの分離の考え方に則り、有機化合物の分離の方法を考えることができる。 □Ideas(知識、技能の習得): Extensionsのために必要となる知識を教科書・資料集からピックアップできる。 ②方法 ■小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト
出口・評価	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★☆ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★★
	6 リフレクションの方法	分離のために必要となる知識をグループ内で共有する。 分離系統図を作成し、意見交換する。
生徒の自己評価	7 ICEモデルに当てはめると	□Extensions(応用、活用): 目的達成のために必要となる知識やスキルを発見できたか？ □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク): 既習事項である金属イオンの分離の考え方に則り、有機化合物の分離の方法を考えることができたか？ □Ideas(知識、技能の習得): Extensionsのために必要となる知識を教科書・資料集からピックアップできたか？
	8 この授業での振り返 教員のリフレクション	本時で生徒自身が得た知識やスキルについて、誤概念・素朴概念をピックアップし、正しい概念に変えていく。
継続	9 工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	TOOL4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 理 科 氏名 _____

授業実施日：令和 2 年 10 月 9 日

本時の見せどころは
電気の正体に迫る！

視点			記述欄
科目名			理数化学
出入口	1	生徒	①所属 理数科2年S組 ②人数 人（男子○人、女子○人） ③特徴・ニーズ ○○○・・・・
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか イオン化傾向 次にどこで使いますか 電気分解
方法・内容	3	本時の内容と 具体的方法 (C/Eの問い、 指導方法、展開)	①題材 電池 ②C/Eの問い 「電気の正体って何だろう？」 ③単元計画 (1) 金属のイオン化傾向 (2) 金属の反応性 (3) 電池（本時） (4) 実用電池 ④方法 ■講義 □演習 ■グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット □_____
出口・評価	4	教員の 評価の方法	①ICEに当てはめると？ □Extensions（応用、活用）： 自然に負荷がかりにくい電気エネルギーを得る方法を考えよう。 □Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 身の周りの電池の種類や構造を知る。 □Ideas（知識、技能の習得）： 電池の原理を理解する。 ②方法 ■小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト
	5	科目や学校全体の 教育目標との一致	みつめる力 ★★☆ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★☆
生徒の自己評価	6	リフレクションの 方法	自分が利用している電池の名称を知り、構造や特徴を教科書等を利用して確認する。
	7	ICEモデルに 当てはめると	□Extensions（応用、活用）： 自然に負荷がかりにくい電気エネルギーを得る方法を考えることができたか？ □Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 身の周りの電池の種類や構造を知ることができたか？ □Ideas（知識、技能の習得）： 電池の原理を理解することができたか？
継続	8	この授業での振り返 教員のリフレクシ ョン	電池の構造や原理について生徒たちに理解させることができたのか。
	9	工夫の根拠 IDモデルに当て はめると？	TOOL4学習プロセスを助ける作戦

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科理科 (生物) 氏名

授業実施日：令和2年10月28日

本時の見せどころは・・・

尿形成の内容と、体内の塩分濃度調節を結びつける

視点			記述欄
科目名			生物応用
出入口	1	生徒	①所属 普通科3年1組 ②人数 41人(男子〇人、女子〇人) ③特徴・ニーズ 大学入試に向けて頑張っている。
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 腎臓(尿形成) 次にどこで使いますか 血糖量の維持
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 3 生物の体内環境の維持 2 体内環境の維持のしくみ ②C/Eの問い 「体内の塩分濃度はどのように調節されているか」 ③単元計画 (1) 自律神経のはたらき (2) ホルモンのはたらき (3) フィードバック(本時) (4) 血糖量・体温の維持 ④方法 ■講義 ■演習 □グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット □
	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ □Extensions(応用、活用)： 体内の塩分濃度の調節のしくみについて説明できる。 □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 尿形成における再吸収について説明できる。 □Ideas(知識、技能の習得)： 塩分濃度の調節に関わるホルモンを2つ答えられる。 ②方法 ■小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みづめる力 ★☆☆ きわめる力 ★☆☆ つなげる力 ★★☆☆
	6	リフレクションの方法	小テストを実施する。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	□Extensions(応用、活用)： 体内の塩分濃度の調節について答えられたか。 □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 再吸収と体内の塩分濃度の関係について答えられたか。 □Ideas(知識、技能の習得)： フィードバックについて答えられたか。
	8	この授業での振り返 教員のリフレクション	定期テスト
継続	9	工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	tool3 メリルのID 第一原理(2)活性化(3)例示(4)応用

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 生物 氏名 _____

授業実施日：令和2年 11月 2日

本時の見せどころは・・・

腎臓の構造と機能を理解し、血圧や尿量の変化などの生理現象を科学的に考察する。

視点			記述欄
科目名			生物基礎
出入口	1	生徒	①所属 普通科1年7組 ②人数 41人（男子23人、女子18人） ③特徴・ニーズ 落ち着いた雰囲気のクラスで、発問に対する反応もよい。・・・
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 細胞膜の性質（膜の透過性）、溶液の濃度の概念、 動物の体のつくりとはたらき（中学校2年生） 次にどこで使いますか 単細胞生物および魚類の浸透圧調節 自律神経とホルモンによる体内環境の調節
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 腎臓の構造と機能 ②C/Eの問い 「体内環境を維持する上での腎臓の機能は何か？」 ③単元計画 (1) 腎臓と肝臓の役割 (2) 腎臓の構造とはたらき（本時） (3) 肝臓の構造とはたらき ④方法 ■講義 ■演習 □グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ■タブレット ■プロジェクター 腎臓の構造の提示
	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ ■Extensions（応用、活用）： 腎臓の機能をヒトの生理現象と関連付けて考察できる。 ■Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 腎臓の機能（ろ過・再吸収）のしくみが理解できる。 ■Ideas（知識、技能の習得）： 基本的な腎臓の構造と機能（ろ過・再吸収）のしくみを説明できる。 ②方法 ■小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト （濃縮率、原尿量、再吸収量に関する思考力を問う）
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★ ★★☆☆ ★★☆☆
	6	リフレクションの方法	腎臓の機能を理解して、血圧の変化および尿量の変化などの生理現象について生徒同士で考察する。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	■Extensions（応用、活用）： 血圧や尿量の変化など浸透現象が体内環境に与える影響を考察できる。 ■Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： ろ過と再吸収による老廃物の排出と浸透圧の調節について理解できる。 ■Ideas（知識、技能の習得）： 腎臓の各部の名称と簡単な機能（ろ過・再吸収）を説明できる。
	8	この授業での振り返 教員のリフレクション	本時で学んだ腎臓による浸透現象の原理に関して、生徒の理解度を図るための問題演習を行う。
継続	9	工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	メリルのID第一原理

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 理科 氏名 _____

授業実施日：令和2年11月6日

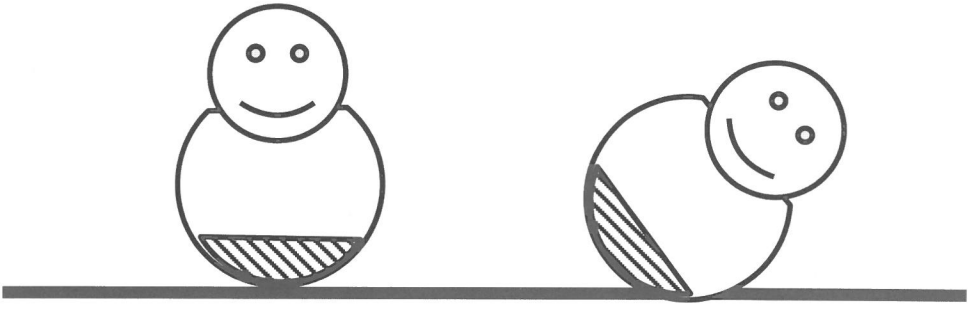
本時の見せどころは・・・地球の誕生時の環境を知る。

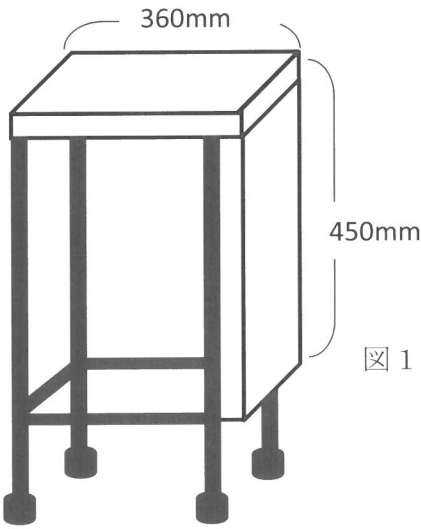
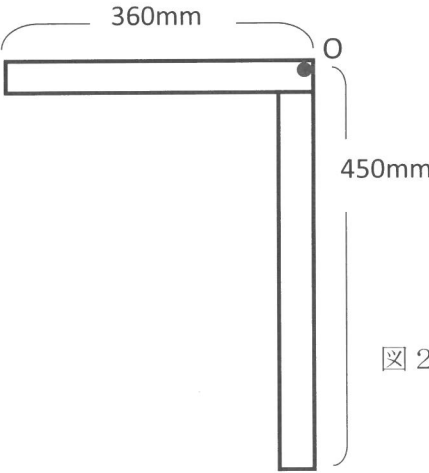
視点		記述欄
科目名		地学基礎
出入口	1 生徒	①所属 普通科2年1組 ②人数 44人（男子21人、女子23人） ③特徴・ニーズ 地球科学的分野に興味関心がある。
	2 授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 地球上には様々な古生物や大気、岩石が存在する。 次にどこで使いますか 地球の歴史を知るために、顕生代の変遷と地球環境の変化を知る。
方法・内容		①題材 先カンブリア時代 ②C/Eの問い 「地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史はどうなっていたのか。」 ③単元計画 (1) 冥王代（本時） (2) 太古代 (3) 原生代 ④方法 ■講義 □演習 ■グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT ■実物投影機 □タブレット ■パソコン
出口・評価	4 教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ □Extensions（応用、活用）： 古生物の変遷と地球環境の変化について調べようとする。 □Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 大気と海洋の変化と生命活動との相互のかかわりについて考えることができる。 □Ideas（知識、技能の習得）： 地球の誕生から生命の誕生、多細胞生物の出現までの地球の歴史がわかる。 ②方法 □小テスト、■定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト
	5 科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★☆☆ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ★★☆
生徒の自己評価	6 リフレクションの方法	問題演習により、理解度を確認する。
	7 ICEモデルに当てはめると	□Extensions（応用、活用）： 地球の誕生から生命の誕生、生物の変遷と地球環境の変化について調べたか？ □Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 大気と海洋の変化と生命活動との相互のかかわりについて考えることができたか？ □Ideas（知識、技能の習得）： 地球の誕生から生命の誕生、多細胞生物の出現までの地球の歴史がわかったか？
継続	8 この授業での振り返り教員のリフレクション	ICTを活用して、地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史の説明ができたか。
	9 工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL 4 ガニエの9教授事象

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

教科 : [理科] / 科目名 : [化学基礎] / [2] 学年対象 ・ [4] 単位				
出題する 考查	[1] 学期 [期末] 考查			
該当する 単元等	第 2 章 物質と化学結合			
出題意図 (レベル)	(1) I レベル 結合の性質，結晶の性質の理解を確認する。 (2),(3) C レベル 結合の仕組みとその結晶に現れる性質を関連づけられているかを確認する。			
【 9 】				
(1) 表の (ア) ～ (ク) に最も適する語句を語群の中から選び，記号で答えよ。				
結晶の種類	金属結晶	イオン結晶	分子結晶	共有結合の結晶
融点と沸点の特徴	多様	高い	多様	(ア)
融解液は電気を通すか		(イ)		
機械的性質	(ウ)	(エ)	(オ)	一般に非常に硬い
構成粒子間の結合			(カ)	(キ)
化学式	(ク)			
[語群] (a) 低い (b) 高い (c) 電気を通す (d) 電気を通さない (e) 展性・延性に富む (f) やわらかくて砕けやすい (g) 硬くてもろい (h) ファンデルワールス力 (i) 電子対の共有による結合 (j) 自由電子による結合 (k) 静電的な引力 (l) 組成式 (m) 分子式				
(2) 下の結晶①～④に分類されるものを A 群の中からすべて選び，化学式(組成式あるいは分子式)で書け。 ① 金属結晶 ② イオン結晶 ③ 分子結晶 ④ 共有結合結晶 [A 群] 酸化銅(Ⅱ) ドライアイス ダイヤモンド ヨウ素 ナトリウム				
(3) 共有結合の結晶にはダイヤモンドと黒鉛があるが，性質の違いを二つ挙げ，その理由を結合の観点からそれぞれ説明しなさい。				
採点基準 (配点)	(3)のみ 配点 (性質の違い 2 点，理由 2 点) 合計 4 点 (性質の違い) ・ダイヤモンドはかたいが，黒鉛はやわらかい。 ・ダイヤモンドは電気伝導性がなく，黒鉛はある。 (理由) ・ダイヤモンドは炭素原子 1 個あたり 4 本の共有結合で正四面体構造，黒鉛は 3 本の共有結合で層状構造をしているため。 ・黒鉛には結晶平面内を自由に動き回る電子があり，ダイヤモンドにはないため。			
備考	採点基準に記載されている内容は教科書から学習できる内容である。E レベルの解答として，①「ダイヤモンドは無色・透明，黒鉛は黒色」→電子軌道での説明，②「ダイヤモンドの密度は 3.5g/cm ³ ，黒鉛は 2.3g/cm ³ 」→単位格子も用いての説明等が挙げられる。今回の考查では，①の違いのみにとどまった。C レベルの問いに対して，E レベル解答誘発も今後研究していく。			

教科：[物理] / 科目名：[理数物理] / [2] 学年対象・[2] 単位	
出題する考查	[1] 学期[期末] 考查
該当する単元等	運動量・円運動
出題意図 (レベル)	8 (1)(2)Cレベル どちらも授業で言葉の定義と数式化を学習した。身の回りの諸現象と関連させ、改めて公式の表す意味を考えさせたかった。
8 以下の問いに答えよ。必要ならば自分で図を描いたり、式を用いたりして説明してもよい。ただし、それぞれ指定された語句を用いて説明すること。 (1) スポーツの世界ではフォロースルーという言葉がある。フォロースルーとはバスケットボールでシュートを打った際にボールが手を離れた後もシュートの動作を続けること、野球やテニスでバットやラケットなどでボールを打った後も手を振り切ることをいう。なぜフォロースルーは必要なのか説明しなさい。 使用する語句 『 運動量 力積 』 (2) ハンマー投げの選手は筋骨隆々な選手が多い。ハンマーをより遠くに飛ばすにはかなりの力が必要とされるからである。なぜかなりの力が必要なのか説明しなさい。ただし、ハンマーとは鉄球を鎖でつないだものとし、鎖が鉄球を引っ張る力を張力とする。 使用する語句 『 張力 』	
採点基準 (配点)	8 (1) 3点 題意に合う回答を図や数式を用いて明確に答えていれば3点 時間についての記述があれば2点 語句の不足－1点 (2) 3点 題意に合う回答を図や数式を用いて明確に答えていれば3点 向心力についての記述があれば2点 語句の不足－1点
備考	(1)についてはボールとそれに力を加えるものの接する時間について応えられていればよい。

教科:[物理]/科目名:[物理] /[2]学年対象・[3]単位	
出題する考查	[1]学期[期末]考查
該当する単元等	力のモーメント・重心
出題意図 (レベル)	8 C・Eレベル 身の回りの諸現象と関連させ、物体の回転においては重心と垂直抗力との位置関係が重要であることに気づいてほしかった。 授業中に実際のパンチングバルーンは全員が触っている。ただし、授業中にその仕組みについては詳細を説明していない。
8	図はパンチングバルーン(おきあがりこぼし)と呼ばれるおもちゃである。中は空気で満たされているが図の斜線部にはおもりが入っている。はじめの状態(①)から②のようにパンチをして斜めに倒してもすぐに①の図のように直立する。なぜそのようになるのか、必要なことを図に書き込み説明せよ。ただしバルーンの重心はおもりの中心にあるとする。  ① ②
採点基準 (配点)	8 3点 題意に合う回答を図や数式を用いて明確に答えていれば3点 ①②の力の作図ができていれば2点 ①の作図ができていれば1点
備考	

教科：[物理] / 科目名：[物理・理数物理] / [2] 学年対象・[3・2] 単位	
出題する考查	[2] 学期[課題] 考查
該当する単元等	力のモーメント・重心
出題意図 (レベル)	7 (1)(2)C・Eレベル 実際に物理の授業の際に起こる出来事を学習した内容で考察させかつた。また、この問いは大学入試共通テストの出題形式を参考に作成した。
7 物理教室での授業では挨拶の際、立ち上がるときに椅子(図1)が倒れ、バタンと大きな音が鳴ることが多い。このことについて、ナオキとアキラが議論している。 (1) 二人の会話について { } 内に入れるのに適切なものを記号で答えよ。 ナオキ：アキラくん、今、椅子を倒したよね。君はいつも椅子を倒すけれど、もう少し気を付けてくれないかな。 アキラ：そうかな。でも仕方ないじゃないか。それに、僕以外にもかなりの人が倒しているじゃないか。 ナオキ：君は物理の授業をきちんと受けているかい。正しい向きで椅子を置けば椅子を倒しにくくできるんだ。 アキラ：椅子の座り方と物理の授業が関係あるわけじゃないか。証拠を見せなさいよ。証拠を。 ナオキ：わかったよ。ポイントは物理室の椅子を直方体に見立てると、4つの側面のうち、1面にしか板が付いていないことにあるんだ。今回はその1面の板を前後どちらに持ってくれば良いか考えるよ。椅子を横から見て、そして簡単に考えるために椅子の骨組みの部分は考えずに、一様な板2枚(天板と側面の板1枚)だけ考えるよ。(図2) 板2枚の重心は横から見ると、板の継ぎ目Oからおおよそ 左に① {ア 225 イ 180 ウ 100 エ 80.0 } mm, 下に② {ア 100 イ 125 ウ 180 エ 225 } mm の位置にあるね。 アキラ：板2枚の重心が板にないなんて、おかしいじゃないか。 ナオキ：君はドーナツの重心を考えたことはあるかい。	
 図1  図2	

アキラ：重心がずれていることはなんとなくわかったけど、そのことが椅子が倒れることと、何の関係があるのかわからないよ。説明してみなさいよ。

ナオキ：立ち上がるときに椅子の天板に膝の裏があたり、水平右向きに力が加わっていると考え（図3）と、椅子の向きをどうすべきかわかるはずだよ。図3の右下の点を中心に椅子が回転するとして、その点のまわりの力のモーメントを考えるとよいはずだね。アキラくんが加えた力は③ {ア 時計周りの力のモーメント イ 反時計回りの力のモーメント}、椅子にはたらく重力は④ {ア 時計周りの力のモーメント イ 反時計回りの力のモーメント} を生むから、側面の板を前方、つまり自分の足側に向けて座るとよいわけだね（図4）。

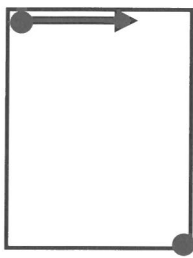


図 3

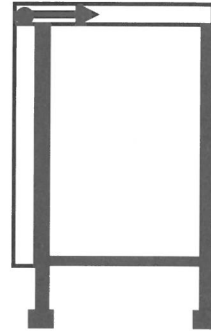
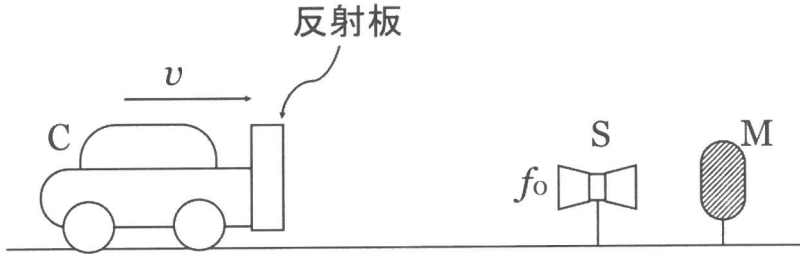


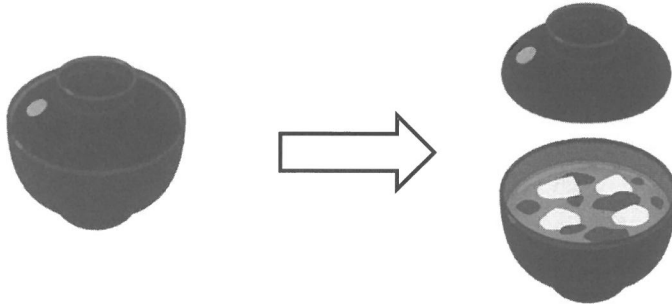
図 4

アキラ：なるほど。よくわかったよ。ありがとう。いつか恩返しをするね。
（一体、どういうことだ……。わからないけど、わかったフリをしよう。）

- (2) アキラくんはわかったフリをしています。ナオキくんの代わりに、なぜ図4のような向きで座るとよいのか説明してあげなさい。必要ならば、図を書いて説明してもよいこととします。

採点基準 (配点)	7 (1) ①②③④ 各2点 (2) 3点 題意に合う回答を図や数式を用いて明確に答えていれば3点 重力についての記述があれば2点 うでの長さについての記述があれば1点
備考	この問題を解いた後に実際に椅子を倒した生徒が減ったかと言えば、決してそうは言えない。

教科：[物理] / 科目名：[物理・理数物理] / [2] 学年対象・[3・2] 単位	
出題する考查	[2] 学期[期末] 考查
該当する単元等	ドップラー効果
出題意図 (レベル)	6 C・Eレベル 実際の速度違反の取り締まりの様子を問題にした。ドップラー効果の式の導出から、何を測定できれば車の速度を知ることができるか、考察させたかった。式の導出や計算はできるが、何に应用ができるかを考えさせたかった。
6	図のように振動数 f_0 の音源 S とマイク M (音を受け取る装置) が固定して置かれている。反射板を取り付けた車 C が速さ v で右に動いている。音の速さを V とし、C, S, M は一直線上に並んでいるものとして、次の問いに答えよ。 (1) 車内の人が聞く音の振動数 f を求めよ。 (2) M が受け取る反射板で反射された音の振動数 f' を求めよ。 (3) この状況は車の速度違反の取り締まりの様子である。マイク M と音源 S を用いることで警察官は車 C の速さを知ることができる。あなたならどのようにして測定しているか考えるか。 
採点基準 (配点)	6 (1) 3点 答えが間違っている場合でも計算過程が合っていればそれに応じて加点した。 (2) 3点 答えが間違っている場合でも計算過程が合っていればそれに応じて加点した。 (3) 3点 題意に合う回答を図や数式を用いて明確に答えていれば3点 前問の二つの答えを変形し、うなりについての記述があれば2点 うなりについての記述があれば1点
備考	

教科：[物理] / 科目名：[物理・理数物理] / [2] 学年対象・[3・2] 単位	
出題する考查	[3] 学期[学年末] 考查
該当する単元等	気体の状態変化・ボイルシャルルの法則
出題意図 (レベル)	6 C・E レベル 身近な現象の原因を物理的な観点から学習内容を用いて考察させたかった。
6 熱いお味噌汁が図のようなフタ付きのお椀で運ばれてきた。いざ飲もうとするとフタが開かない。 (1) フタが開かなくなったのはなぜか。お椀の中の気体について熱力学的な観点から考察し、説明しなさい。 (2) 中身をこぼさぬようにフタを開けるには、あなたならどのように開けるか。	
採点基準 (配点)	6 (1) 3点 題意に合う回答を図や数式を用いて明確に答えていれば3点 ボイルシャルルの法則についての記述があれば2点 お椀内の気圧が下がったことを述べていれば1点 (2) 3点 題意に合う回答を図や数式を用いて明確に答えていれば3点 お椀とフタの間に隙間を作ること述べていれば2点 (圧力差について述べられていることが望ましい) 温め直すなど、熱力学的な変化の必要性について述べていれば1点
備考	実際にこの現象を体験したことがなくイメージができない生徒がいた可能性がある。お椀にお味噌汁を注いだ時からの温度の低下に気づかねばならず、答えづらかったと思われる。 お椀内の圧力と大気圧の関係を逆に捉えてしまう生徒が多くいた。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 保健体育 氏名 _____

授業実施日：令和2年10月22日

本時の見せどころは・・・20年後の自分の姿をリアルに
予想し、生き生きと発表する生徒の姿を御覧ください。

視点			記述欄
科目名			保健
出入口	1	生徒	①所属 普通科1年7組 ②人数 41人（男子23人、女子18人） ③特徴・ニーズ グループ活動が得意な生徒もいるものの、教師の発問やグループ活動の行い方の工夫が必要である。
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 中学校までに学んだ、「発生源をなくすこと」「感染経路を遮断すること」「主体の抵抗力を高めることによって予防できること」の感染症予防の三原則を理解している。 次にどこで使いますか 次の時間に学習する「性感染症・エイズとその予防」や2年次に学習する「保健制度とその活用」につながっていく。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 「感染症の予防」 ②C/Eの問い 「20年後のあなたが、家族や周囲の人たちの健康を守るために感染症予防として意識することはなんですか？」 ③単元計画 (1) 現代の感染症 (2) 感染症の予防(2/2本時) (3) 性感染症・エイズとその予防 ④方法 ☒ 講義 ☒ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ⑤ICT ☐ 実物投影機 ☐ タブレット ☒ 動画
	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ ☐ Extensions（応用、活用）： 20年後の自分を想定し、家族や周囲の人たちの健康を守るために感染症予防として意識することができる。 ☐ Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 2種のニュースの視聴を比較し、状況の変化で対策が変化することを知識とつなげることができる。 ☐ Ideas（知識、技能の習得）： 感染症予防の三要素を確認できる。 ②方法 ☐ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ シート提出、 ☐ 実技テスト
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★☆☆ ★★★★★ ★★★★★
	6	リフレクションの方法	「振り返りのたまご」を使って
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ Extensions（応用、活用）： 未来を想像し、学びを活かそうとすることができているか？また、自分の考えを他者へ表現することができているか？ ☐ Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 実際の報道をもとに感染予防の社会的対策について学ぶことができているか？ ☐ Ideas（知識、技能の習得）： 感染症予防の三原則を理解しているか？
	8	この授業での振り返り教員のリフレクション	ワークシート、「振り返りのたまご」を回収する 先生方から書いていただいた授業参観シート
継続	9	工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL3 メリルのID第一原理 「応用」与えられた条件で何が起きるかを予想させる。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

教科：[保健体育] / 科目名：[保健] / [1] 学年対象・[1] 単位	
出題する考查	[2] 学期[期末] 考查
該当する単元等	
出題意図 (Eレベル)	「感染症の予防」の単元で学んだことを、現在世界中で流行している新型コロナウイルス感染症と重ね、理解し表現することができるようになる。
問題4 新型コロナウイルス感染症により、様々なところで差別や偏見、風評被害などといった人権問題が発生している。なぜそのようなことが起きるのか、またそれらの問題はどのようにすれば防ぐことができるのか、あなたの考えを<u>120文字以上</u>で述べなさい。	
採点基準 (配点)	1. 規定の字数を超えているか 2. なぜ新型コロナウイルス感染症から人権問題が発生しているのかを考え、その原因が何にあるのかが述べられているか 3. その人権問題を防ぐための具体的な対策や方法が明記されているか 規定字数を超え、2、3について現在の社会情勢を理解した上で自分の考えを述べている【満点5点】 規定字数は超えているが、2、3のうちどちらか1つしか解答していない【3点】 規定字数に満たしていない。又は無記入【0点】

教科：[保健体育] / 科目名：[保健] / [2] 学年対象・[1] 単位	
出題する考查	[1] 学期[期末] 考查
該当する単元等	
出題意図 (Eレベル)	環境と健康について学び、自分自身の将来像と環境対策を想定した問題を設問した。
問題9 あなたの将来をイメージして答えなさい。(ICE：Eレベルの問題) 10年後のあなたは、仕事をしています。それは、社員、経営者、研究者、芸術家、公務員、企業家、教育者などそれぞれになっています。また、この10年後は、現在よりも環境は悪化、地球規模的に人類の存続の危機がさらに迫っていると想定します。 10年後のあなたは、どのような職種(職業)になって、そこでどのような環境対策を行っているか具体的に述べなさい。	
採点基準 (配点)	1. 設問の将来の自分像を表現しているか 2. 人類存亡に関わる、環境対策を考えて表現しているか 3. その環境対策が具体的であるか。また、科学の進化発展を創造した対策を表現しているか 文章の語数には制限がないので、上記の1. 2. 3. を総合的に採点する 全ての要件を満たし、アイデアや考察が優秀である【満点9点】 2つ以上の要件を満たし、表現できている【6点】 1つの要件を満たし、表現している(文章の作成途中も含む)【3点】 全ての要件から逸脱している。又は無記入か【0点】

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 美術 氏名 _____

授業実施日：令和 2 年 6 月 25 日

本時の見せどころは・・・絵具の使い方を知って、そっくりな色で描くことができるか模索するところです。

視点			記述欄
科目名			美術 I
出入口	1	生徒	①所属 理数科 1 年 S 組 ②人数 15 人（男子 10 人、女子 5 人） ③特徴・ニーズ しっかりと取り組みのできる生徒たち。美術への好奇心もある。
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか アクリル絵の具の使い方、混色の仕方、観察の仕方、描写表現のやり方 次にどこで使いますか 今後の美術作品制作の基礎となる。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/E の問い、指導方法、展開)	①題材 「理科棟の植物を描く」(植物着彩) ②C/E の問い 「どのように観察し、どのように表現しようか」 ③単元計画 (1) 植物採取 (2) 鉛筆描写 (3) 着彩(本時) (4) 鑑賞 ④方法 ■講義 ■演習 □グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 □タブレット ■パソコン、モニター
	4	教員の評価の方法	①ICE に当てはめると？ □Extensions (応用、活用) : 細やかな観察を通して 1 つの生物の持つ調和のとれた美しさを感じることができる。(観察から得られる体験と、表現方法の模索) □Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 中学校までに水彩画の知識はある。水彩画の表現を深める。 生物 植生をよく観察し、形や色、また仕組みの特徴や変化を捉える。 □Ideas (知識、技能の習得) : 観察の仕方、鉛筆での描写、アクリル絵具の使い方を知る。 ②方法 □小テスト、□定期考査、□レポート、□シート提出、□実技テスト ■実技作品、(鉛筆描写、着彩描写)
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★☆ つなげる力 ☆☆☆
	6	リフレクションの方法	作品鑑賞の時間で振り返りを行う。Classi で自己評価する。
生徒の自己評価	7	ICE モデルに当てはめると	□Extensions (応用、活用) : 良く観察することで、生物の美しさ面白さを感じることができたか。 □Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 水彩画の表現方法を深めることができたか。 (生物の授業での観察に役立てることができるか) □Ideas (知識、技能の習得) : 細密描写の方法が理解できたか。着彩の方法が理解できたか？
	8	この授業での振り返り教員のリフレクション	
継続	9	工夫の根拠 ID モデルに当てはめると？	

※日本教育工学会 FD セミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015) に、ID モデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 美術探究 氏名 _____

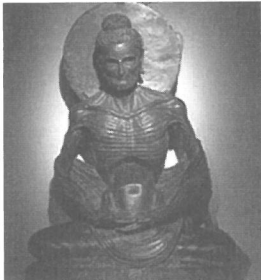
授業実施日：令和2年9月10日

本時の見せどころは・・・

画像分析と知識を関連付け、概念化すること

視点			記述欄
科目名			現代文
出入口	1	生徒	①所属 美術科1年生 ②人数 41人(男子7人、女子34人) ②特徴・ニーズ 探究活動には好意的で熱心。プレゼンテーションやグループワークも協力的である。
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 画像分析と美術史的な知識を結びつけること 次にどこで使いますか 探究レポート課題「これが西洋美術史のターニングポイントだ！」 自分自身の制作、未知の美術への出会い。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材「悲母観音(狩野芳崖)」鑑賞 ②C/Eの問い 「日本画が明治時代になりどう変化したか？」 ③単元計画 (1) 日本美術史(6~9月) (2) 印象派(9月) (3) 探究レポート課題(8~11月) (4) 西洋美術史(12~2月) ④方法 ■講義 □演習 ■グループワーク □実演 □実習 ⑤ICT ■実物投影機 □タブレット
	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ □Extensions(応用、活用): 明治維新によって西洋化が進む日本の文化の流れの中で、伝統的日本画がどう変化したかを考察できたか。 □Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク): 日本美術史の知識、印象派の知識を活用できたか。 □Ideas(知識、技能の習得): 画像分析したことを、言語で表現できたか。 ②方法 □小テスト、□定期考査、■レポート、□シート提出、□実技テスト
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★★ きわめる力 ★★★★ つなげる力 ★★★★
	6	リフレクションの方法	①授業中、グループディスカッション、全体での発表を通して、お互いの理解度を確認する。 ②定期考査(2学期)のEレベル問題として出題し、解答を記述する。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	ペーパーによる自己評価はしない。 グループディスカッション等で、他の生徒との理解度の差異を振り返ることができる。
	8	この授業での振り返 教員のリフレクション	定期考査の解答。
継続	9	工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

教科：[専門美術] / 科目名：[美術探究] / [1] 学年対象・[2] 単位																	
出題する考査	[1] 学期 [期末] 考査																
該当する単元等	日本美術史 仏教美術																
出題意図 (レベル)	(1) Cレベル 知識と画像分析を結び付ける。 (2) Eレベル 特殊な内容や表現に対し、根拠を基に自分なりの仮説を立てる。																
①図(ア)～(エ)は釈迦の人生のそれぞれの場面を表しています。 誕生から悟りを開くまでの順番で並び替え、記号で答えなさい。 ②(ア)の作品について、釈迦がどんな状況にあるのか、観察してわかったことを根拠として説明しなさい。(イ)～(エ)の図と比較して説明してもよい。その時は図(イ)などと表記する。 図(ア)  図(イ)  図(ウ)  図(エ) 																	
※採点基準を解答欄に記載																	
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価の観点</th> <th>配点</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 習得</td> <td>細部までよく観察し、文章で表現できた。</td> <td>1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C 活用</td> <td>画像と釈迦の人生を関連付けて理解できた。</td> <td>1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>E 探究</td> <td>知識と観察したことを根拠として状況を推測することができた。</td> <td>2点</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		評価の観点		配点	評価	I 習得	細部までよく観察し、文章で表現できた。	1点		C 活用	画像と釈迦の人生を関連付けて理解できた。	1点		E 探究	知識と観察したことを根拠として状況を推測することができた。	2点	
評価の観点		配点	評価														
I 習得	細部までよく観察し、文章で表現できた。	1点															
C 活用	画像と釈迦の人生を関連付けて理解できた。	1点															
E 探究	知識と観察したことを根拠として状況を推測することができた。	2点															
採点基準 (配点)	上記																
備考																	

教科：[専門美術] / 科目名：[美術探究] / [1] 学年対象・[2] 単位													
出題する考查	[1] 学期 [期末] 考查												
該当する単元等	日本美術史 彫刻・建築												
出題意図 (レベル)	(1) C レベル 知識と画像分析を結び付ける。 (2) E レベル 知識と自分自身の課題を結び付ける。												
第二高校の先生をモデルに仏像をデザインし、絵で表現しなさい。ただし、以下の条件を満たすこと。 ①如来、菩薩、天のどれかに位置付けること ②仏としての名前を付けること ③仏としての役割、性格を考え簡単に説明すること ④第二高校の先生であればだれでもよい。わからない場合は監督の先生にこっそりモデルになっていただく（お伝えしていなので・・・）。お名前や性格等はその場の雰囲気考える。 ⑤その仏像はマスクをしていても良い。													
解答欄に採点基準を記載													
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価の観点</th> <th>配点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 習得</td> <td>「如来」「菩薩」「天」の違いを理解している</td> <td>2 点</td> </tr> <tr> <td>C 活用</td> <td>描いたことと知識が結びついているか</td> <td>2 点</td> </tr> <tr> <td>E 探究</td> <td>人々が仏像に込めた思いを理解し、今の自分を取り巻く課題を表現した</td> <td>2 点</td> </tr> </tbody> </table>		評価の観点		配点	I 習得	「如来」「菩薩」「天」の違いを理解している	2 点	C 活用	描いたことと知識が結びついているか	2 点	E 探究	人々が仏像に込めた思いを理解し、今の自分を取り巻く課題を表現した	2 点
評価の観点		配点											
I 習得	「如来」「菩薩」「天」の違いを理解している	2 点											
C 活用	描いたことと知識が結びついているか	2 点											
E 探究	人々が仏像に込めた思いを理解し、今の自分を取り巻く課題を表現した	2 点											
採点基準（配点）	上記												

教科：[専門美術] / 科目名：[美術探究] / [1] 学年対象・[2] 単位																
出題する考查	[2] 学期 [期末] 考查															
該当する単元等	日本美術史 近代															
出題意図 (レベル)	(1) C レベル 知識と画像分析を結び付ける。 (2) E レベル 知識に基づいて美術史的な転換期を位置付ける。															
狩野芳崖「悲母親音」の画像と、説明資料を読んで答えなさい。 ①作品を観察して、その特徴や発見したことを重要と思うものから三つ答えなさい ②①を基に、明治時代の日本画としてどんな意味があるか、自分なりに考えたことを杞憂に記述しなさい。																
解答欄に採点基準を記載																
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価の観点</th> <th>配点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>解答に取り組んだ</td> <td>2 点</td> </tr> <tr> <td>I 習得</td> <td>明治時代の美術を理解しているか</td> <td>3 点</td> </tr> <tr> <td>C 活用</td> <td>画像分析と結び付けているか</td> <td>3 点</td> </tr> <tr> <td>E 探究</td> <td>論理的に説明しているか</td> <td>3 点</td> </tr> </tbody> </table>		評価の観点		配点		解答に取り組んだ	2 点	I 習得	明治時代の美術を理解しているか	3 点	C 活用	画像分析と結び付けているか	3 点	E 探究	論理的に説明しているか	3 点
評価の観点		配点														
	解答に取り組んだ	2 点														
I 習得	明治時代の美術を理解しているか	3 点														
C 活用	画像分析と結び付けているか	3 点														
E 探究	論理的に説明しているか	3 点														
採点基準（配点）	上記															

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 科学英語 氏名 1年英語科

授業実施日：令和2年

本時の見せどころは・・・

英語でのスライド・動画作成、プレゼンテーション力

視点			記述欄
科目名			科学英語
出入口	1	生徒	①所属 理数科1年 ②人数 42人（男子27人、女子15人） ③特徴・ニーズ 意欲的な生徒が多く、グループ活動にも協力的な生徒が多い。
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないとい困ることは何ですか 理科に関する知識、科学情報でのパソコン活用（power point や word の活用技術）、関連する英語の語彙、Classi のコンテンツボックス活用技術 次にどこで使いますか スピーチ・プレゼン素材の準備、動画の作成
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 (1) Something I like：自分の興味があることを英語で動画作成 (2) Ezu Lake English Presentation ②C/Eの問い (1) 自分の興味があるものに英語を使って積極的に発信する。 (2) 江津湖研修の活動発表を英語で行う。 ③単元計画 5月～6月：休校期間で Something I like は Classi に動画を投稿する。 11月～2月：江津湖研修の発表内容を科学情報の授業と協働してプレゼンテーションを準備し、SSH I での授業で発表する。 ④方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☒ 実演 ☐ 実習 ⑤ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット
	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ ☐ Extensions（応用、活用）： 視聴者や聴衆を意識して、効果的なプレゼンテーションを行う。 ☐ Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 興味関心や研修内容を通して、幅広い知識を得る。 ☐ Ideas（知識、技能の習得）： 理系の専門英語用語、プレゼンテーションスキルを習得する。 ②方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☒ レポート、 ☒ シート提出、 ☒ 実技テスト
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みづめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★★ ★★★★★ ★★☆☆
	6	リフレクションの方法	(1) 効果的な動画でのプレゼンテーションができたか (2) 研修の発表では相手に伝わる効果的なプレゼンテーションができたか
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ Extensions（応用、活用）： 発表の準備を新しい領域への幅が広がったか ☐ Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： これまでに学んだものを活用して発表できたか？ ☐ Ideas（知識、技能の習得）： プレゼンテーションの方法について理解できたか？
	8	この授業での振り返 教員のリフレクション	効果的なプレゼンテーションの方法を積極的に活用し、相手に伝えられるプレゼンテーションを促す。また相手の発表に対しての質問力を磨く。
継続	9	工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	TOOL3 授業設計の原則「活性化」「例示」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 コミ英語Ⅰ 氏名 1年英語科

授業実施日：令和2年

見せどころは・・・

即興での話す技能の「やり取り」力

視点			記述欄
科目名			コミュニケーション英語Ⅰ
出入口	1	生徒	①所属 普通科・理数科・美術科 ②人数 409人（男子215人、女子194人） ③特徴・ニーズ グループ活動やペア活動に協力的な生徒が多い。
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 即興型ディベートの一連の流れ、関連する英語の語彙、表現 次にどこで使いますか 肯定、否定でのそれぞれの役割でのスピーチややり取り、質問
方法・内容			①題 材 即興型ディベート ②C/Eの問い 「相手の意見を聞き取り、それに対して反論を加えたり、質問をしたりする」 ③単元計画 毎週1回行い、教科書の内容に関することやその他の議題を取り扱う。 ④方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☒ 実演 ☐ 実習 ⑤ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット
出口・評価	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ ☐ Extensions（応用、活用）： 肯定側、否定側の立場を意識して論理的なプレゼンテーションを行う。 ☐ Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 様々な論題を扱い、幅広い知識を得る。 ☐ Ideas（知識、技能の習得）： 即興型ディベートのルール、プレゼンテーションスキルを習得する。 ②方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ シート提出、 ☒ 実技テスト
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★★☆
生徒の自己評価	6	リフレクションの方法	チームで協力しながら相手の意見を聞き取り、それに対してチームで論を立てる力を養うことができたか振り返る。
	7	ICEモデルに当てはめると	☐ Extensions（応用、活用）： 様々な意見に対して論理的な思考を深めることができたか？ ☐ Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： これまでに学んだ知識を活用して意見を述べることができたか？ ☐ Ideas（知識、技能の習得）： 即興型ディベートについて理解できたか？
継続	8	この授業での振り返り教員のリフレクション	ジャッジを行うことで、さらに議論について客観的に考える素地を養うように促す。
	9	工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	TOOL3 授業設計の原則「活性化」「例示」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 英語表現Ⅰ 氏名 1年英語科

見せどころは・・・
即興でのやり取りする力

授業実施日：令和2年

視点			記述欄
科目名			英語表現Ⅰ
出入口	1	生徒	①所属 普通科・美術科 ②人数 409人（男子215人、女子194人） ③特徴・ニーズ ペア活動やグループ活動にも協力的な生徒が多い。
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 日常生活に関連する英語の語彙や表現 次にどこで使いますか ペア活動、エッセイライティング、スピーチ
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 (1) Pair and Share のテキスト (2) ALT との授業内容 ②C/Eの問い 「相手の意見を聞き取り、それに対して自分の意見を言えるようになるう」 ③単元計画 毎時間、ペアになって日常生活の会話練習を行ったり、ALT と協力し、文法を実践的に活用した活動を行ったりする。 ④方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☒ 実演 ☐ 実習 ⑤ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット
	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ ☐ Extensions（応用、活用）： 聞き手を意識して積極的に英語を使う。 ☐ Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： 日常生活に密接した様々な内容の論題を扱い、幅広い知識を得る。 ☐ Ideas（知識、技能の習得）： 疑問詞や既存の文法の基礎知識、英語の語彙 ②方法 ☒ 小テスト、 ☒ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ シート提出、 ☒ 実技テスト
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★ ★★★ ★★☆☆
	6	リフレクションの方法	ペアやチームで協力しながら相手の意見を聞き取り、それに対して英語を使って積極的に表現活動に取り組めたかを振り返る。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ Extensions（応用、活用）： 様々な活動に対して、積極的に英語を活用して表現できたか？ ☐ Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： これまでに学んだ知識を活用して活動に参加することができたか？ ☐ Ideas（知識、技能の習得）： 日常生活に密接した基本的な用語や文法を理解できたか？
	8	この授業での振り返 教員のリフレクション	ペア活動やグループ活動で積極的に学んだ知識や技能を活用するように促す。
継続	9	工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	TOOL3 授業設計の原則「活性化」「例示」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 コミ英語Ⅱ 氏名 _____

授業実施日：令和2年11月16日

本時の見せどころは・・・
即興でのプレゼンテーション力

視点			記述欄
科目名			コミュニケーション英語Ⅱ
出入口	1	生徒	①所属 普通科2年3組 ②人数 45人（男子20人、女子25人） ③特徴・ニーズ 意欲的な生徒が多く、グループ活動にも協力的な生徒が多い。
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 即興型ディベートの流れ、温室効果ガスへの基礎知識 関連する英語の語彙 次にどこで使いますか エッセイライティング、スピーチ、ディベート
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 即興型ディベート 「We should limit greenhouse gas emissions」 ②C/Eの問い 「相手の意見を聞き取り、それに対して自分の意見を言えるようになろう」 ③単元計画 (1) Comprehension (2) Word hunting, Q and A (3) Translation (4) Summary (5) Preparation (6) Debate (本時) 6/7 (7) Grammar and Structure ④方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☒ グループワーク ☒ 実演 ☐ 実習 ⑤ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット
出口・評価	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ ☐ Extensions (応用、活用) : 聴衆を意識して論理的なプレゼンテーションを行う。 ☐ Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 様々な論題を扱い、幅広い知識を得る。 ☐ Ideas (知識、技能の習得) : 即興型ディベートのルール、プレゼンテーションスキルを習得する。 ②方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ シート提出、 ☐ 実技テスト
	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★★★ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★★☆
生徒の自己評価	6	リフレクションの方法	チームで協力しながら相手の意見を聞き取り、それに対してチームで論を立てる力を養うことができたか振り返る。
	7	ICEモデルに当てはめると	☐ Extensions (応用、活用) : 様々な意見に対して論理的な思考を深めることができたか？ ☐ Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : これまでに学んだ知識を活用して意見を述べることができたか？ ☐ Ideas (知識、技能の習得) : 即興型ディベートについて理解できたか？
継続	8	この授業での振り返 教員のリフレクション	ファシリテーターとして、各グループの活発なディベート活動を促す。
	9	工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	TOOL3 授業設計の原則「活性化」「例示」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 コミュニケーション英語Ⅱ 氏名 _____

授業実施日：令和2年11月16日

本時の見せどころは・・・
 様々な資料を活用したディベートができるか

視点			記述欄
科目名			コミュニケーション英語Ⅱ
出入口	1	生徒	①所属 普通科2年8組 ②人数 37人（男子13人、女子24人） ③特徴・ニーズ 意欲的な生徒が多いが、比較のおだやかで盛り上がり欠ける
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らない困ることは何ですか 即興型ディベートのルールとスピーチの流れ 温室効果ガス排出に関する世界や日本の取組など、基礎的な知識 ディベートに最低限必要な語や表現 次にどこで使いますか ディベート、エッセイ作文、パフォーマンステストなど
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 即興型ディベート「Japanese government should set limits on greenhouse gas emissions from each company.」 ②C/Eの問い 「温室効果ガスの排出規制の是非」 ③単元計画 (1) Comprehension (2) Word hunting, Q and A (3) Grammar and Translation (4) Summary (5) Essay Writing and Preparation (6) Debate (本時) 6/7 (7) Review ④方法 □講義 □演習 ☒ グループワーク ☒ 実演 □実習 ⑤ICT □実物投影機 ☒ タブレット
	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ ☐ Extensions (応用、活用)： ディベートを行うことで排出規制の是非について考えを深め、自らの身の回りに起きうる課題として捉える。 ☐ Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 温室効果ガスの排出規制によってどのようなメリット・デメリットがあるのか考え、相手の論を予測しながら主張したり反論したりする。 ☐ Ideas (知識、技能の習得)： 即興型ディベートのルールを理解し、資料や統計を活用しながら論を立てる。 ②方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☐ レポート、 ☒ シート提出、 ☐ 実技テスト
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★
	6	リフレクションの方法	チームで協力しながら自チームの論を立て、また、相手の意見を聞き取り、それに対してチームで論を立てる力を養うことができたか振り返る。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ Extensions (応用、活用)： 様々な意見に対して論理的な思考を深めることができたか？ ☐ Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク)： これまでに学んだ知識を活用して意見を述べることができたか？ ☐ Ideas (知識、技能の習得)： 即興型ディベートや温室効果ガスの排出に関して知識を深めることができたか？
	8	この授業での振り返 教員のリフレクション	ファシリテーターとして、各グループの活発なディベート活動を促す。
継続	9	工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	TOOL3 授業設計の原則「活性化」「例示」「統合」

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

The Highlight of This Class

Subject English Name Valeria Magallan

Date: June 30, 2021 2nd period

The highlight of this lesson is seeing students use English for a creative activity. They are able to produce high quality work in a short amount of time.

View			Writing Space
Subject			English Expression
出入口	1	Students	①Class 1—S (But both 1年生 and 2年生 will have done this activity) ②number of students: 41 (male: 26, female: 15) ③Feature and Needs of 1—S Students in 1-S are very good and eager to do activities. They have very good energy. However, some students have difficulty joining into groups. We just need to guide students to practice good teamwork.
	2	Positioning of today's class	Previously on last class Before this lesson, class 1-S had 一学期期末試験. They have studied (and hopefully mastered) lessons 1 - 8 from their English Expression textbook. Link to the next class Although this is mainly a self-contained lesson, after this class, students can assess which expression/communication skill they need to work on the most. Hopefully they will have had fun and will be motivated to continue studying English to better express themselves next time.
contents	3	Lesson Plan	①Theme Infomercials in English: Let's make a commercial! Let's learn the importance of gestures when we communicate. ②Main Question "Can we make/present a commercial using English?" ③Lesson Plan (1) Introduction: What is an infomercial? Show video examples. (10min) (2) Explain the rules of activity and give a demonstration of presentation (5 min) (3) Working Time: Students do a worksheet that helps them plan for their commercial presentation. The students should practice speaking and using gestures. (20min) (4) Presentations. Students present and listen to others' presentations. (15min) ④Learning Methods ☒lecture ☒groupwork ☒demonstration ☐experiment ⑤ICTtools ☐camera ☒tablet ☒projector Students were allowed to use their chromebooks and electronic dictionary if they needed to.
Evaluation	4	Teacher's evaluation	①ICE Questions ☐Ideas: Students can choose any object in the classroom to write a commercial for. The activity is creative, so they have many opportunities to think creatively. Creative and Critical thinking. ☐Connections: Students use grammar points learned in previous classes to advertise their product. ☐Extensions: The grammar points and communication skills learned by doing this project can be used in any conversation. Can gestures be useful in everyday conversation? ②Evaluation Methods ☐Quiz ☐Regular test ☐report ☒worksheet ☒Performance test (Students use a worksheet to plan their commercial and then perform

			in front of the class.)
	5	Matching with education goal	Thinking Ability Master Skill Applied Skill ★★☆☆ ★★☆☆ ★★★★★
S t u d e n t s S e l f -	6	Reflection	Students and teachers are usually impressed with the quality of work students can produce in just 15-20 minutes of working time. Students enjoy using English and enjoy watching their friends' presentations! It is a good opportunity to learn from each other.
	7	ICEModel	□Extensions: - I realized that they can use grammar structures that I learned in class and gestures when communicating with other people. - I learned that gestures are very important in communicating. □Connections: -I used grammar structures that I learned in class. □Ideas: -My idea was creative and unique.
T e a c h e r E v a l u a t i o n	8	Teacher's Reflection	Students are able to produce quality work in a short amount of time. I was surprised as to how funny and creative the students can be. I was really happy to see that. If we wanted a bit more refined and rehearsed presentations, it would be best to use 2 class periods instead of 1. Most students work well in their groups and play an active role in the presentation. I think it is a good project to exercise teamwork as well. Some teams were very creative! A group tried to sell oxygen! It was very good!
	9	Implemented Teaching Model ID	Tool 3: メリルのID第一原理

*Created as Kumamoto Prefectural Daini High School version based on the FD Seminar "University Class Design Inspection Worksheet" (2015) of the Japan Society for Educational Technology, with the addition of analysis using an ID model and examination of improvement plans.

The Highlight of This Class

Subject English Expression II Name Josh Fandel
 Date: June 8, 2021 (6th period)

The highlight of this lesson was that students were very good at listening to the questions that I would say, and many of them got the correct answers to the questions. I think they also enjoyed working together to find the answers, and everyone got slightly more involved as time passed. It was nice to see.

View			Writing Space
Subject			English Expression II
出入口	1	Students	① Class: 2-6 (this activity was done with all 10 classes though) ② Number of students: 40 (male: 32, female: 8) ③ Feature and Needs of 2-6: There are many boys. Making groups can be difficult for girls sometimes.
	2	Positioning of today's class	Previously on last class Continuing to have classes with lessons that are self-contained but also integrate many different types of English skills (this one uses listening, reading, and a little writing/typing). Link to the next class This is the class before the Final Exams, so there is no link to the next class (ALTs don't teach anything during the weeks around testing, so the lesson after tests will be new).
contents	3	Unit Plan	① Theme Reading and understanding English in a map/guide form, and being able to answer spoken questions about the map/guide. ② Main Question Can students work together to quickly read a map in English and respond to questions about it? ③ Class Plan (1) Explain the plan for the lesson. First, give a background presentation about my university. End the presentation with introducing the number of boba shops at my university. (2) Have students get into groups of 3-5 people, and then explain that I put the map for today's activity on the google classroom for their class. They can use the digital map, and we will also pass out a printed (A3) version of the map so that they can see the whole thing. (3) They choose a person who will type the answers to the questions on their chromebooks, and that person makes a Google Doc to type their answers on. We will give students 5 minutes to read over the map in their groups and understand it (they can use dictionaries or Chromebooks). Then we start to ask them questions about the information on the map. (4) After each question, students will have one minute to talk with their group, and then they have to put type their answer in the Google Doc on their Chromebook. After one minute, each group will hold their Chromebook up so that we can see what their answer to the question is, and then we (teachers) will confirm which group(s) have the right answer and we will give them an appropriate number of points (we will write the points on the blackboard). ④ Learning Methods: ☒ lecture ☒ groupwork ☒ demonstration ☐ experiment ⑤ ICT tools: ☐ camera ☒ tablet ☒ projector ☒ Chromebooks (students)
Evaluation	4	Teacher's evaluation	① ICE Questions Ideas: Understand how to read a map. Understand some slightly complex English sentences that they should be able to read with the help of their dictionaries, etc. They also need to be able to work as a team to answer the questions that we pose. They will also work on their listening ability. Connections: We are trying to read more things in class now, and they have read many passages before, so this isn't anything completely new. They just have to read very quickly. Extensions: In the future, having the ability to skim important documents and quickly find pieces of important information will be useful. ② Evaluation Methods ☐ Test ☐ Regular test ☐ Report ☐ Worksheet ☐ Performance test ☒ Groups of students were asked questions and then had to show their group's

			answers typed out on a Chromebook to the teachers. Answers were then evaluated for correctness and assigned points. Groups' points were written on the blackboard.
	5	Matching with education goal	Thinking Ability Master Skill Applied Skill ★★★★ ★★★★★ ★★★☆
Students Self-	6	Reflection	Students that I talked to after the class said they enjoyed the activity.
	7	ICEModel	Ideas: Could students understand the passages when working together to read them? Was the map easy to understand visually? Could the students work together to find the answers, or did they just rely on one person to find the answers and not work together? Connections: Did students make use of their previous experience with reading passages? Did they use their experience with previous group activities to make the process go more smoothly? Extensions: Will students be able to read short informational passages quickly in the future? Did the students understand that this could help them if they ever have to guide somebody around who doesn't speak Japanese?
Evaluation on continuation	8	Teacher's Reflection	I enjoyed doing this activity with students, but I think there needed to be a better way to encourage students to not just Google Translate everything using the digital copy of the map on their Chromebooks. It would be nice if this activity could also connect to another activity that I had done. I think I would rather have done this activity before the poster-making activity that we finished the week before, as a small introduction, but I didn't think about that ahead of time.
	9	Grounds for ingenuity	ARCS Model

*Created as Kumamoto Prefectural Daini High School version based on the FD Seminar "University Class Design Inspection Worksheet" (2015) of the Japan Society for Educational Technology, with the addition of analysis using an ID model and examination of improvement plans.

教科：[英語] / 科目名：[コミュニケーション英語Ⅰ] / [1]学年対象・[3]単位	
出題する考查	[1]学期[期末]考查
該当する単元等	Lesson1 Lesson8
出題意図 (レベル)	(1) Cレベル 登場人物の主張やその主張の理由を読み取らせる。 (2) Eレベル 学んだ内容を踏まえて実際に自分の町の紹介を外国人にするとしたらという状況設定を英語を用いて表現する。
【出題内容】 (1) this experience について具体的に説明し、以下の空所に適切な語を用いなさい。 kaishi は (①) 経験を通して、(②) を学んだ。 (2) 以下の文は外国人観光客に対して、自分の町を紹介した文章である。 【A】～【D】に適切な語や文を入れて、観光客にアピールする英文を作りなさい。 I would like to introduce my town, 【 A 】 . My town is interesting because 【 B 】 . We can 【 C 】 and 【 D 】 . Please visit my town!!	
採点基準 (配点)	(1) 指示語の内容を適切に含んで、その後の内容に即した文章を日本語を適切に使い解答している。(①：7点 ②：8点) (2) 【A】～【D】まで文のつながりがある内容とし、効果的なアピールを現実に即して英語で表現できているか。(10点)
備考	

教科：[英語] / 科目名：[英語表現Ⅰ・科学英語] / [1] 学年対象・[2] 単位	
出題する考查	[1] 学期[期末] 考查
該当する単元等	英語の型で表現する・英語の「時」を表現する・助動詞で表現する
出題意図 (レベル)	(1) Cレベル 「聞くこと」音のつながりに関して語と語のつながりに気を付けて音を正しく文字として書き取ることができる。 (2) Eレベル 質問に対して相手に英語でアドバイスしたりすることで、より積極的な英語コミュニケーションの運用力を図る。
【考查内容】 (1) 音声を聞き、() 内に該当する語句を全て文字に直しなさい。英文は2度読まれる。 John () picture to everyone in the room. (他4題) (2) 音声を聞き、指示された英文を考えて答えなさい。各文とも英文は1語で答えなさい。指示文は2度読まれる。 (指示文) Write a sentence which gives Valeria sensei advice about living in Kumamoto using the model should.	
採点基準 (配点)	(1) 繋がりある語を全てかける (1点) (2) 指示文に対し、適切かつ現実的な英文でのアドバイスが書ける。 (2点)
備考	

教科：[英語] / 科目名：[英語表現Ⅱ] / [2] 学年対象・[2] 単位	
出題する考查	[1] 学期[期末] 考查
該当する単元等	Be English Expression Ⅱ Lesson 6
出題意図 (レベル)	Cレベル（選択肢の検討・経験のあてはめ） Eレベル（意見の表出・他分野との関連付け・結果や影響の予想） 英語表現Ⅱの授業では2回に1回、単元の題材に関してエッセーを書いています。これは1年時より継続して取り組んできたもので、2年では目標80語で書くよう、指導・添削等を行っています。 今回の考查では、「留学しなくても英語は学習できるという人もいるが、どう思うか」という問いで最低60語でエッセーを出題しました。普段の英語の学習を振り返り、海外に行かないのであればどのような学習法があるか（オンライン学習や日本にいる外国人との英会話、ウェブでの添削指導など）、また、逆に海外で学ぶことにどのようなメリットがあるのか（文化の違いを知る、生活しながら自然と学べる、発音技術を向上できるなど）、賛成または反対の立場で自分だったらどうするか考えさせる問いになっています。コロナウイルス感染症による自粛・休校生活が長かった生徒たちですので、その間の自分たちの英語の学習なども踏まえ、問いに答えてくれました。
【7】Some people say that you can study English without going abroad. What do you think about it? Write your own ideas with at least 60 words.	
採点基準 (配点)	◆◆ 60語以上書いてあるものを採点（10点満点） ◆ 内容・表現… 5点 問いを正しく理解し、問いに対して自分の立場を明確にして表現しているか。理由を複数挙げているか。 ◆ 文法 3点 文法的な間違い3つにつきマイナス1点 ◆ Spelling 2点 つづり間違いなど
備考	

授業改善のための工夫の見せどころシート

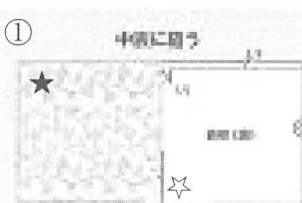
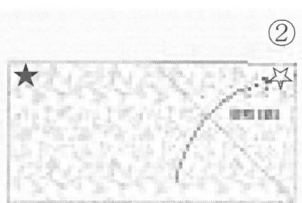
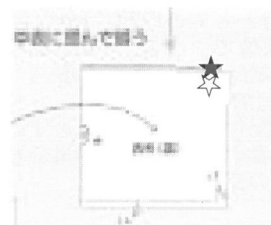
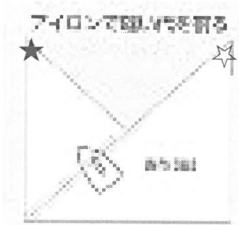
教科 家庭 氏名 _____

授業実施日：令和2年7月

本時の見せどころは、家庭実習課題で取り組んだ基礎縫いの確認を生かし、あずま袋を完成させることです。

視点			記述欄
科目名			家庭基礎
出入口	1	生徒	①所属 普通科1年6組 ②人数 41人（男子22人、女子19人） ③特徴・ニーズ
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 手縫いの基本、織物の構造（耳、織り）、素材の種類について等を理解し、素材準備に生かせるようになっておくことです。 次にどこで使いますか 夏課題のホームプロジェクトで、家族の課題解決で生かします。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法（C/Eの問い、指導方法、展開）	①題材 あずま袋を作ろう ②C/Eの問い 「持続可能な衣生活の工夫とは？」 ③単元計画 (1)【休校時家庭課題】衣生活領域の基礎知識理解（2h） (2)【休校時家庭課題】家族に合ったマスクを作ろう（2h） (3)【休校時家庭課題】衣替えにセーターを洗おう（2h） (4)衣生活領域の基礎知識確認（2h） (5)あずま袋を作ろう（本時+1h） (6)持続可能な衣生活の工夫を考えよう（考查問題および1h） ④方法 □講義 □演習 ■グループワーク ■実演 ■実習 ⑤ICT ■実物投影機 ■タブレット ■Classi（ポートフォリオ課題）
	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ ☐Extensions（応用、活用）： 被服材料を用いた持続可能な工夫の取り入れ場면을提案できる。 ☐Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： マスクに適した素材、家族に合った型紙選び等、受け取り手のニーズを考慮できる。 あずま袋の活用場面の代替案を提示できる。 ☐Ideas（知識、技能の習得）： マスクを作ることができる。ウールを適切に手洗いできる。 ②方法 ■定期考查、□レポート、■作品提出、■実技テスト ■Classi ポートフォリオへ写真とレポート提出
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★☆ ★★★★★ ★★★★★
	6	リフレクションの方法	各授業終了時に「振り返りのたまご」を作成する。ペアで紹介しあう。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ Extensions（応用、活用）： 被服材料を用いた持続可能な工夫の取り入れ場면을提案できたか？ ☐ Connections（既知の知識・概念や他領域とのリンク）： マスクに適した素材、家族に合った型紙を選び、作ることができたか？ あずま袋の活用場면을提案できたか？ ☐ Ideas（知識、技能の習得）： ウールの手洗いが適切にできたか？
	8	この授業での振り返り教員のリフレクション	生活の場面でプロセスを楽しむことにつなげることができたか？ 自分でコントロールすることができたか？
継続	9	工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	ARCSモデル 関連性（R-2）自分の得意な、やりやすい方法やペースで学ぶようにする 自信（C-3）やり方を自分で決め、「自分が努力したから成功した」と言えるようにする。

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」（2015）に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

教科：[家庭] / 科目名：[家庭基礎] / [1] 学年対象・[2] 単位	
出題する考查	[1] 学期[期末] 考查
該当する単元等	衣生活領域
出題意図 (レベル)	(1) Cレベル 考查までに再確認した基礎縫いの知識と結びつける。 (2) Cレベル 現在の社会の動きとこの作品を結び付けて考える。 (3) Eレベル 他者性がある
【1】(Connections の問題) 今後の授業では被服に関する取組で「あずま袋」を1時間で製作します。好きな「和手ぬぐい」を準備しておいてください。縫い方は下図の通りです。 ① 中表に縫う  ②  ⇒ ③ 中表に縫って開く  二か所縫った後で☆☆を持って開くと 右のような袋になります。 ひっくり返して完成です。→ ④ アイロンで型押しをきる  (1) 縫い合わせるのは2箇所だけです。手縫い(並縫い)で、針目は0.3~0.5cm とふつうの針目で縫います。途中にいくつか1針返し縫いをいれておくとよいですが、それはなぜだと思いますか？ (2) ☆☆☆2つの三角を結んで使います。この袋は、どのような場面で使えると予想しますか？ (3) この袋をもう一つ作って、身近な誰かにプレゼントしたいと思います。そのときには、この袋のよさをアピールして渡してください。誰にプレゼントして、どんなアピールをしますか？詳しく書いてください。	
採点基準 (配点)	(1) 2点 強度を保つため/糸がほつれないようにするため (2) 2点 【日常的なあなたの使用場面を記述してほしい】 レジ袋の代わりに使う/弁当箱を包む 校内移動の時、勉強道具を入れる/送り物を持っていく など (3) 小計6点 「誰に」2点 「アピール」4点 レジ袋の代わりになる/使い方がカンタン/愛着が持てる 布は好きなものを選ぶ/コンパクトにたたんで持ち歩ける 心がこめられる/洗濯できる/何回も使える など
生徒の解答例	* 祖母にプレゼントする。 サイズも弁当箱と同じぐらいで、職場に弁当を持っていくときに使えると思うよ。デザインもおばあちゃん好みの生地を使って作っていて、返し縫をしているから頑丈で壊れにくいよ。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 1年探究 (GR/AS)

授業実施日：令和2年10月9日

本時の見せどころは・・・ZOOMや投票ボックスを使って、著者および遠隔地の他校と理解を深めていくところです。

視点			記述欄
単元名			学び方を学ぶ (学習設計マニュアルを使った取組)
出入口	1	生徒	①所属 普通科1年・美術科1年 ②人数 368人 (男子182人、女子186人) ③特徴・ニーズ 振り返りの共有ツールとして投票ボックスを使い、共有する大切さを実感できている。クラスを越えて共有する体験を自らの振り返りに役立たせている。
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 6回にわたって「学び方を学ぶ」授業・取り組みを経て、自らの学びに生かしている部分がある。(生かしている部分があるかを振り返る。) 次にどこで使いますか 今後のGR/ASの授業の理解をスパイラルアップさせ深めていく。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①題材 著者の先生に質問しよう！ ②C/Eの問い 「あなたにとって“学び方を学ぶ”って何ですか？」 ③単元計画 (1) 第1・2・3・4・5・9・10・11章を読み、Classiに配信された課題に取り組む。(休校期間を含む・事前学習としての取組)(計7回) (2) 事前の取り組みを基に、zoomで教室を映像でつなぎ、Classiの投票ボックスを使って状況のリアルタイム共有を授業時間中に実施する。 (3) 各授業終了後、Classiに編集で気付きを追加する。 (4) 投稿記述を基に、リフレクション通信を配付し、更に振り返りを促す。 (5) 以上の取り組みを終えての振り返りと著者の先生方への質問を考える。 (6) 著者へ質問および遠隔地他校生との学びの交流 (本時) (7) 振り返り (次時) (8) リフレクション通信による振り返りの共有 ④方法 ☐ 講義 ☒ 演習 ☐ グループワーク ☐ 実演 ☒ 実習 ⑤ICT ☒ 実物投影機 ☒ タブレット ☒ Classi
	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ ☐ Extensions (応用、活用) : 自己調整学習者、さらには共調整学習者へと成長を目指す。 ☐ Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 自分の学習に取り入れた工夫をメタ認知させる。 ☐ Ideas (知識、技能の習得) : 興味を深めることで、知識を広げることができる。 ②方法 ☒ Classi レポート、 ☒ 「振り返りのたまご」提出 *Classi レポートには、「振り返りのたまご」の写真のアップを入れる。
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 きわめる力 つなげる力 ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★
	6	リフレクションの方法	交流授業終了時に、1枚の振り返りのたまごを作成する。 コラボ講演会まで終えて、もっと知りたいことをClassiに投稿する。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると	☐ Extensions (応用、活用) : 自己調整学習者、さらには共調整学習者への成長を目指そうとすることができたか？ ☐ Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 自分を取り入れたことを、今後さらに関連付けようとすることができたか？ ☐ Ideas (知識、技能の習得) : 興味を深めることで知識を広げることができたか？
	8	この授業での振り返り教員のリフレクション	授業前の取り組み・アンケートをオンラインのセッション内において生かしたインタラクティブなやりとりを行い、具体的な回答を組み込むことで相互作用を高めることができたか？
継続	9	工夫の根拠IDモデルに当てはめると？	ジャストインタイム指導法

※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

学び方を学ぼう リフレクション NEWS ～1 学期を振り返って～ 2020.8.24

「学習設計マニュアル」を通しての学びが、一人一人の学びを深くしていることが実感される振り返りがたくさん寄せられました。2 学期も頑張っていきましょう！

8月27日(木)は「学習設計マニュアル第9章 時間を管理する」を読みます。事前に読みましょう。

全ての章をしっかりと読み込むことができたと思います。探究活動は普段の勉強とは別の、私たちが将来人間らしく、どう生きていくかの、鍵となる活動だと感じました。まだまだ未熟で未完成な私たちが将来立派になるためにも、これからも一生懸命に取り組んでいきたいと感じました

GR の授業があったからこそ今までの自分を振り返ることができたと思います。例えば『自分の学び方』など今まで考えたことがなかったけど、探求授業によって複数の項目から 1 番自分の学びに近いものを選びそこからまた深く～タイプみたいなのがわかりました。それを友達と共有することによって『自分はこんなところが違うんだ』とか『こんなところは似てるのか』などがしれて楽しかったです。自分自身について振り返ることはこれからの人生においてあまりないと思うので GR の授業を大切に、自分の改善点を見つけ出し失敗を少なくできるような考え方をしていきたいです。

中学校ではなかった学習設計マニュアルや zoom 機能で投票したりすることで友達の学習の仕方や自分がこのような立場にいるなどを知ることができた。この活動を通して、自分の生活の良い点、改善点を知ることができ、改善点は全てではないが改善することができた。少しだけ自分の生活意識が変わり親に「勉強しなくて良いの？」ではなく「まだ勉強するの？」と言われるようになった。

GR では、自分の日々の勉強の仕方や勉強に対する心構え、そして、根本的な人間性や性格などを客観的に見て、同じ学年の人と比べました。その結果、自分が気にして、コンプレックスを感じていた部分は意外とみんなと同じだったりしたのでとても安心しました。とはいえ、やはり変えるべき点も多くあるので、これからも改善をしていこうと思います。

GR の授業は中学にはなく、とても新鮮でわくわくしました。しかも ZOOM を使ったりスマホを使ったり、他クラスと離れているのに繋がっているという感じがしてなんだか楽しかったです。中学の頃より学び方を学ぶ機会が増え、自分の学習が本当にこれでいいのか？と疑ったり、もっと深く学ぶべきなのだと気づいたり、GR の授業はこれからの私の学習に考えるということプラスし、学習方法をさらに改善する機会になるのではないかと思います。期末テストの悲惨な結果を見てただ落ち込み反省するだけではなく、足を引っ張っている教科はなにか、どうして足を引っ張っているのか、分析し、急に高い目標を掲げるのではなくとりあえず平均に、などこのような考え方は 1 学期の GR で学んだことだし、これからの勉強に生かしていこうと思います。

GR では、多くの生徒とコロナの影響で zoom を利用して多くの意見を共有し合い比較することで自分の視野や考え方を広げることが出来ました。中学校までは主に自分の意見(過去)ばかりと向き合ってきましたがそうすると思考などがどうしても片寄ってしまっていました。ですが高校で他人と意見を共有し他人の考え方を学ぶことでいままでとは全く違った思考や考え方を得ることができたと思うのでこういう活動をもっと沢山したいです。

GR などの時間で、大学調べや、勉強の仕方についての今の現状を知ったことで自分自身と向き合う時間というのが、十分に確保出来たのではないかと思います。自分に足りない所が明確になったことで、それを日々の学習に活かしたり、授業の受け方のスタイルを変えてみたりして探究活動で得た学びを毎日の生活につなげることが出来ました。また、大学調べの探究活動を通して、視野が広がったと思います。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 探究

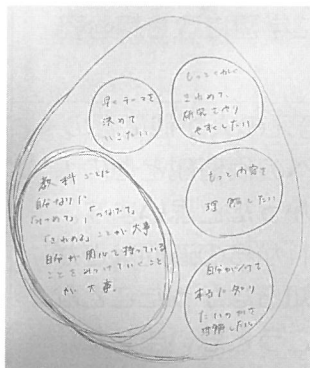
授業実施期間：令和2年9月9日～12月23日

本取り組みの見せどころは・・・評価の全体構造が「一枚ポートフォリオ評価」スタイルになっているところです。

視点			記述欄
科目名			グローバルリサーチ (GR)
出入口	1	生徒	①所属 普通科1年 ②人数 328人 (男子182人、女子146人) ③特徴・ニーズ コロナ禍で、グループワークが難しい状況です。
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 家庭基礎ホームプロジェクトの取組「See→Plan→Do→See→・・・」の 取り組み方。 次にどこで使いますか 2年GRにおいてテーマ研究で、再度個人研究に取り組みます。
方法・内容	3	本時の内容と 具体的方法 (C/Eの問い、 指導方法、展開)	①題材 ミニテーマ研究 ②C/Eの問い 「あなたにとって『みつめる』『きわめる』『つなげる』 って何？」 ③単元計画 (1) 研究の進め方ガイダンス (0.5) (2) C/Eの問いについて、学習前の自分の状態で記述する (0.5) (3) CanBeMapを使って自分の興味のありかを教科を切り口に深く探る(0.5) (4) 仮説の設定・仮説の検証方法検討・仮説検証 (実験、調査等) (3) (5) クラス内中間発表会 (全体性のたまごを使う) (1) (6) ポスター作成 (3) (7) クラス内グループ発表会 (10人を選出) (8) クラス内代表者発表会 (1人を選出) (9) 学年代表者発表会 (計9人が発表) (10) ミニテーマ研究振り返り (振り返りチャート)、C/Eの問いの学習後記述。 ④方法 ☐ 講義 ☒ 演習 ☒ グループワーク ☐ 実演 ☐ 実習 ⑤ICT ☒ 実物投影機 ☒ タブレット ☒ ZOOM ☒ Classi
	4	教員の 評価の方法	①ICEに当てはめると？ ☐ Extensions (応用、活用) : 自分自身の興味を探究続ける。 ☐ Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 仮説に関して必要な知識・概念を柔軟に広げつなげる。 ☐ Ideas (知識、技能の習得) : 単時間毎に行ったことの振り返りを「振り返りのたまご」で振り返る。 ②方法 ☐ 振り返りのたまごシート作成、 ☐ Classi 投稿 (Classi にフレームを配信。項目ごとに記述と振り返りのたまご写真の 投稿する)
出口・評価	5	科目や学校全体の 教育目標との一致	みつめる力 ★★★★ きわめる力 ★★★★ つなげる力 ★★★★
	6	リフレクション の方法	毎時間の終了時に「振り返りのたまご」を作成→Classiに投稿する テーマ研究の終了時に「振り返りチャート」をふせんと使い作成する
生徒の自己評価	7	ICEモデルに 当てはめると	☐ Extensions (応用、活用) : 自分の好き (興味) を探究続けられたか？ ☐ Connections (既知の知識・概念や他領域とのリンク) : 自分の興味、研究を進めているプロセスにつなげることができたか？ ☐ Ideas (知識、技能の習得) : 単時間毎に行ったことの振り返りができたか？
	8	この授業での振り返 教員のリフレクシ ョン	【学習前記述+毎時振り返りのたまご作成・投稿+学習後記録】という形式 のポートフォリオ評価
継続	9	工夫の根拠 IDモデルに当て はめると？	TOOL3 メリルのIDの第一原理「問題」 個人でテーマ設定する

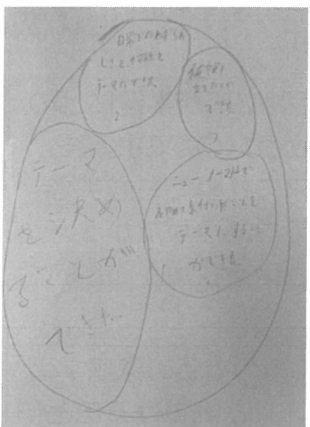
※日本教育工学会FDセミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討
を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。

- 学習に対して疑問を抱きながら取り組むのが最も大事だと思いました。普段はただ授業を受けるだけだったので、取り組む姿勢を意識したいです。視点も変えたいです。数学の公式利用について疑問があったので良かったです。



自分が何を本当に知りたいのか理解したい。

→ 自分をみつめることでクリアになってきますよ。わからないから考えるのです。



ニューノーマルで初めて気づいたことを、テーマにすることができた。

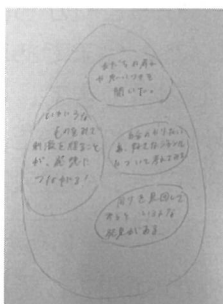
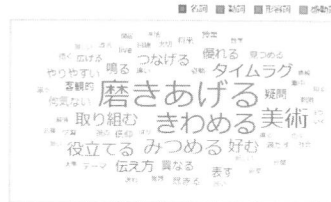
→ CanBeMapが有効活用できましたね！
早速いい感じですね。探究、楽しんでください。

今のところ、投稿してくれている人の記述から特徴的な単語・出現する頻度の多い単語を表現した「ワードクラウド」を下記に添付します。色んなことを考えている様子が伝わりますね。

1年GR/AS水⑦ テーマ研究の活動記録の概況

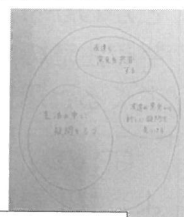
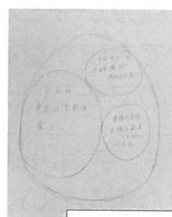
ワードクラウド

文章中の特徴的な単語（出現頻度も加味）を複数選び出し表示しています。
特徴的な単語ほど大きく表示されます。

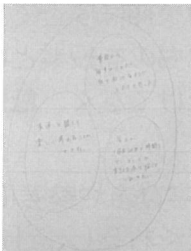


いろいろなものをみて刺激を得ることが、発想につながる！

周りを見回してみると、いろんな発見がある。

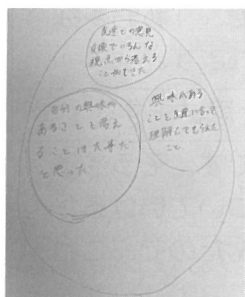


人との意見の共有は楽しい！！



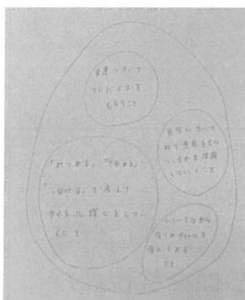
毎日の何気ない生活の中に疑問を持って生活することが大切だと感じた。

家とか（GR以外の時間）で、
テーマや実証方法を探しておきたい。



自分の興味があることを考えることは大事だと思った。

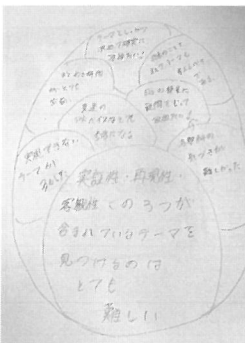
興味があることを友だちに言って理解してもらえたこと。



友達にきいてアドバイスをもらうこと。
先生にきいて意見をもらうこと。

→ そうなのです。会話・対話の中からヒントをもらうことはとても大事ですね。
他に誰に聴きますか？

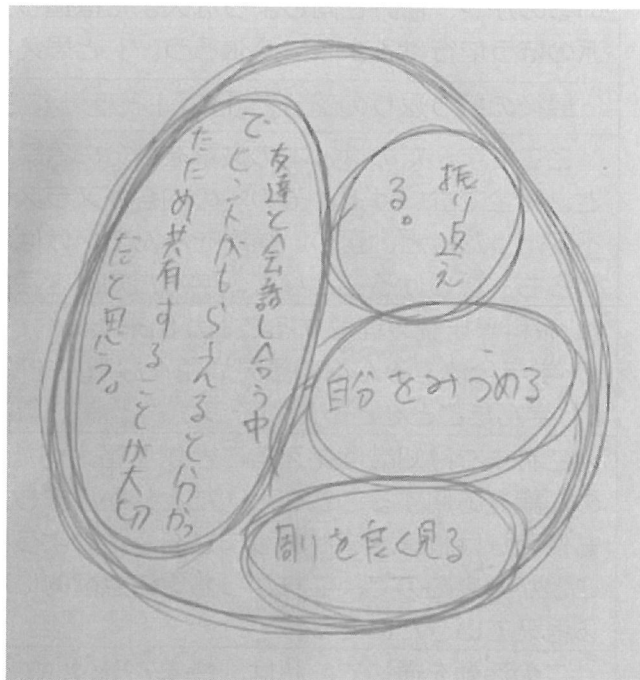
先輩に尋ねる。家族に尋ねる。
大学の先生に尋ねる。
本に尋ねる。→これって本を読むってことですね。
→これを記録するのが「参考文献」ですよ。



まとめる時間がとても少ない。

→ そうなのです。授業だけで終わろうとすることはできないと気づきましたか？

水曜日7時間目以外の時間も、考え続けたり探したりまとめたり・・・と楽しみ続けていくことが大切ですね。



友達と会話し合う中で、ヒントがもらえるとわかったため、共有することが大切だと思う。

難しくても考え続けるとその中に楽しさを感じられてきます。それを感じている人のたまごを紹介してみました。共有しながら、苦しいけど楽しい、難しいけど面白いを見つけていきましょう。

GR の学習時間では学習設計マニュアルを、時間を使って深く読み進めた。その際に、アンケートなどで周りの人たちの今の状況などを知ることができ、自分の長所と短所などを知ることができた。そこで学んだことを学習に生かすことのできたので、自分にとって有意義な時間となった。6月の休校明けから始めてとても短い時間しかしていないはずなのに学習に取り組む姿勢が変わったのはとてもよかったです。

GR の活動ではズームで一斉にして、考えを共有することで自分と同じ考えの人が他にどのくらいいるのかなど、たくさんの意見を聞くことができました。自分の学びへの価値観と他の人の価値観というものが知ることができ、自分が今いる位置を把握できて良かったと思います。また、大人の人の意見も聞きながらこれからの学びや日々の過ごし方、これからの道筋などがなんとなくわかった気がしました。今まであまり気づかなかった部分や、知らなかったことなどがわかり、自分が今どこまで理解できて、これからの生活に生かしていこうと思いました。学校生活の中でも生かせる部分はこれからたくさんあり、学ぶ場面というのも必ずどこかで出てくると思うのでそういった一つ一つの機会を大切にしていこうと思います。

GR の時間は、学習設計マニュアルをしっかりと読み、投票ボックスの活動で皆が学習にどのような形で取り組んでいるのかが知れ、それにより自分が周りと比べてどうなのかの比較もできた。学び方というのは学力を伸ばす上で重要なファクターであり、将来の仕事でも必ず必要になってくると思う。そんなものを授業という形で再認識できたのはとてもありがたかった。勉強による結果を見直すだけでなく、勉強の仕方も見直すことが重要という言葉が印象的だった。

GR の時間は、自分に合った学び方や参考になる学び方がたくさん出てくるので私の家庭学習時間にとってもいい影響を与えてくれるし、「あ、こんなやり方もあるのか。」と気づけることがあって役に立っています。Classi の投票ボックスを使うことで今みんなはどのような状況にいるのかや、自分と同じような人または違う人がどれくらいいるのかがわかって、「私も多数派のほうに行けるように頑張ろう。」と思えるのでモチベーションを上げてくれます。

最後の振り返りの部分で「ICE」モデルに注意しながらかけたのではないかと思います。

ここで学んだのは、本の文章を自分の言葉で分かりやすく直して、読むことです。そうすると、完全でないけど、その本の内容がスラスラ入ってきました。高校の勉強についていけるか不安だったけど、正しい順序をふんでいけば、理解できるとの活動を通して学んだので、これからも、だらけることなく、学んだ知識を活かしていきたいです。

I 教科書を読み理解することが出来た。

C 学年全体でみんなの意見や色々な意見を聞き自分と関連づけた。

E 学んだことをどう生かそうか、どう友達に教えようか考えることが出来た。

これまでは知識は覚えることが1番大切だと思っていました。しかし、それだけではなくその知識を応用することも大切だと分かりました。例えば、ピアノのように知識があったとしても使えなければ意味がありません。このように探究活動を通して学習に対する考え方を広げることができたので、これからも更に意欲的に取り組んでいき多くの考え方をもち様々な視点から考えていきたいです。

この活動を通して、私は、今まで気付いていなかった自分の考えを知ることができ、とても驚きました。これから、もっと自分について詳しく知れるようになりたいです。

今まではこういった活動をしたことがなかったので、このGRという授業は自分を見つめなおすいい機会でした。この学習設計マニュアルは大学生や社会人になった自分にも共通するような大切なことが書いてあるのでこれからもGRの時間を大切にしていこうと思った。

今までの勉強への考え方が、大きく変わることが何度もありました。

授業改善のための工夫の見せどころシート

教科 GR・ASⅡ 氏名 _____

授業実施日：令和2年12月23日

 本時の見せどころは・・・
テーマ研究の論文化！

視点			記述欄
科目名			GR・ASⅡ
出入口	1	生徒	①所属 普通科、美術科全員 ②特徴・ニーズ 探究活動には好意的。プレゼンテーションやグループワークも協力的である。活動に質にまだ差がある。
	2	授業の位置づけ	以前学んでいたことで、知らないと困ることは何ですか 目的、仮説。検証、考察の流れ 次にどこで使いますか ①この論文を情報で文書ソフトとプレゼンテーションソフトでデジタル化し、外部に発表できる体裁に整える。 ②入試、大学でのレポート、論文、研究、就職してからのプレゼン。
方法・内容	3	本時の内容と具体的方法 (C/Eの問い、指導方法、展開)	①、②題材、C/Eの問い 「テーマ研究を論文にしよう！」 ③単元計画 (1) 学習設計マニュアル(6月) (2) テーマ研究準備(7月) (3) テーマ研究(8～11月) (4) テーマ研究の論文化(12月) ④方法 ☐ 講義 ☐ 演習 ☐ グループワーク ☐ 実演 ☒ 実習 ⑤ICT ☐ 実物投影機 ☒ タブレット(指導用プレゼン)
	4	教員の評価の方法	①ICEに当てはめると？ ☐ Extensions(応用、活用)： 表現⇔分析・検証を繰り返すことで、自分の考えを概念化しているか？ ☐ Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 社会や学問的な発展につなげているか？ ☐ Ideas(知識、技能の習得)： 自分の考えを汎用性の高いフォーマットにリメイクできているか？ ②方法 ☐ 小テスト、 ☐ 定期考査、 ☒ レポート、 ☐ シート提出、 ☐ 実技テスト
出口・評価	5	科目や学校全体の教育目標との一致	みつめる力 ★☆☆ きわめる力 ★★★ つなげる力 ★★★
	6	リフレクションの方法	情報の授業でデジタル化し、印刷部として共有する。 時間の都合で生徒のリフレクションは省略。
生徒の自己評価	7	ICEモデルに当てはめると ※テーマ研究下書き(ポスター)の自己評価で関連する部分	☐ Extensions(応用、活用)： 先行研究から発展した内容になっているか？ ☐ Connections(既知の知識・概念や他領域とのリンク)： 研究目的は社会や学問的な発展性があるか？ ☐ Ideas(知識、技能の習得)： 論旨・序論・結論の流れの一貫性があるか？
	8	この授業での振り返 教員のリフレクション	①生徒が書いたものを二高ICEモデルに基づいて評価する。 ②SSHアンケートの生徒記述内容を学年会で共有する。
継続	9	工夫の根拠 IDモデルに当てはめると？	

※日本教育工学会 FD セミナー「大学授業設計の点検ワークシート」(2015)に、IDモデル用いた分析及び改善案の検討を追加されたものをもとに、熊本県立第二高等学校版として作成。